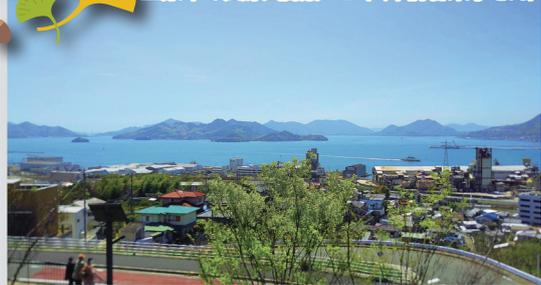


しまなみだより

第19号 2022年10月発行



三原市の風景 (撮影:2年 片桐碧采子さん)



秋涼の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度4月からは、原則対面授業となりました。これまでのオンライン授業の実施実績を踏まえ、そのメリットを活かしつつ、対面授業を増加させ、学修者本位の質の高い教育となるよう教員一同取り組んでおります。学生の皆さんも感染対策に留意しながら、講義や演習、サークル活動などを通して経験を積み重ね日々学びを

深めています。引き続き、保護者の皆様のご支援をいただけますよう何卒よろしくお願いたします。

今号では、令和4年度前期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科 / 看護学コース広報係)

新入生オリエンテーションセミナー

令和4年4月29日(祝日)に、新入生オリエンテーションセミナーが三原キャンパスで開催されました。看護学コースだけでなく、保健福祉学科各コースの新入生と、学生自治会2年生、教職員が参加しました。

はじめに、三原警察署による防犯対策の講義で、生活上の注意点や護身術を学びました。その後、学生自治会が企画したサークルや保健福祉学科各コースの紹介動画の上映や「お絵描き伝言ゲーム」をして楽しみました。学生自治会メンバーからは「自治会が主催したレクリエーション(お絵描き伝言ゲーム)も、予想以上に盛り上がりくれたのでとっても良いオリゼミになりました!」との意見がありました。また、コース別オリエンテーションでは、小グループに分かれて学修支援アドバイザーの学生や教員と座談会を行いました。短い時間でしたが、新入生同士で交流をしたり、先輩や教員に相談する機会を得ることができました。これからも仲間と一緒に支え合いながら、有意義な学生生活を過ごされることを願います。

(麻生浩司)



交流の様子

就職1年目の先輩達が大学に帰ってくる「カミングホーム」を開催しました



卒業生と在学生

卒業生(4病院11名)が大学に戻り、旧友や教員と親睦を図りやる気と自信を取り戻すことを目的に「カミングホーム」を行いました。また卒業生に協力いただき、3年生へ向けて病院紹介やキャリア活動の紹介を行っていただきました。3年生はキャリア活動についてだけでなく後期からの実習についても質問していたようです。また4年生は卒業研究や国家試験の対策についてアドバイスをもらうことができました。国家試験の勉強方法が参考になったなどの感想がありました。在学生は先輩達の頑張っている姿に刺激を受けたようでした。

同級生や教員との歓談では、「教員から辛いことなどあったら相談に乗ると言ってくれたのが、とても心強かった」「久しぶりに同級生や先生達と会話できたことが楽しかった」「同じ悩みを抱えていることに共感できた」と卒業生はリフレッシュすることができたようです。

(伊藤良子)



卒業生と教員

1～4年生の授業紹介

1年生 保健福祉概論

入学直後の第1クォーターに、保健福祉学科に所属する全コースの1年生が合同で学ぶ科目です。毎回、講義とグループディスカッションを組み合わせた授業を行い、グループ編成は全コースの学生混成の7～8名としています。看護職（看護師・保健師・助産師）、養護教諭、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、医師について、歴史的背景、学問体系、役割・機能について学んだうえで、多職種連携・協働の実例から、自らの職種が他の専門職とどのように関わればよいのか、現時点で有する知識を総動員して考え、発言しています。

専門職について学び始めたばかりの時期ではありますが、高い志をもって入学してきた学生同士、大きな刺激を受けながら共に学んでいます。
(黒田寿美恵)



保健福祉概論 授業の様子

2年生 日常生活援助方法論Ⅱ

この科目は、健康な人間にとっての日常生活行動の意味を看護の視点から理解し、日常生活行動に関する援助技術が科学的根拠を理解した上で実践できることを目指しています。今年度は洗髪や寝衣交換・全身清拭、排泄などほとんどの演習を対面で行うことができました。

演習前に事前課題に取り組んだり、看護技術の動画を視聴したりしながら演習に臨み、演習では学生同士で看護師役・患者役を経験しました。看護師役だけでなく患者役を経験することで対象に必要な配慮について身をもって感じ、看護職としての基本的姿勢を身に付けることにつながっていることと思います。これまでの学びを後期の授業に活かして欲しいと願っています。
(池田ひろみ)



演習風景：包帯法



演習風景：洗髪

3年生 母性看護方法論



母性看護方法論 授業の様子

この科目では女性が母親になるプロセスとしての重要な時期である周産期（子どもを産み育てる時期）に焦点をあて、女性とその家族を支援する看護の方法を学びます。妊娠・出産・産後を経験する母親と、生まれたばかりの新生児の生理的变化に関する医療知識をもとに看護アセスメントと援助方法を考察していきます。この授業は、クラスを30人ずつの二つに分け、対話形式のアクティブラーニングを行いました。学生は事前にテキストを読んで授業ノートを作成することが求められますが、より深い学びにつなげることができています。後期の「母性看護実践論」では、この「方法論」の学修を活かして、看護技術の演習を含めたシミュレーションによる学びで臨地実習に備えます。
(日高陵好)

4年生 小児看護実習

コロナ禍の影響はありましたが、小児看護実習を三原市立保育所と医療施設（県立広島病院、広島県立障害者リハビリテーションセンター若草園）で行うことができました。

子どもとの接し方が分からず緊張して実習に臨む学生ですが、保育所で「お姉さん先生、お兄さん先生!」と声をかけてもらう中で、楽しみながら子どもへの関わり方や日常生活の援助を学んでいました。また、手洗いや黙食などをする姿をみて、保育現場での感染対策の現状も理解していました。



若草園での実習：集団遊びの様子

医療施設では、入院する子どもやご家族と関わる中で、治療や看護の実際を知りました。そして手術を受ける子どもには心理的準備を促すプレパレーションの実施や、安静が必要な子どもには合併症の観察や清潔援助だけでなく安静による苦痛を軽減するための遊びなど、個別性のある看護に取り組みました。集団遊びを行った学生は、治療をする子どもの遊びや発達を促す援助についての学びを深めていました。

(松森直美, 土路生明美, 鴨下加代)



学生が企画したお楽しみ会

シミュレータ「SCENARIO」を活用した授業

今般の新型コロナウイルス感染拡大下において医療人材養成課程の教育(特に患者を対象とする実習)が変更を余儀なくされました。そして今後、再び、新興・再興感染症が流行した場合であっても、実践的で質の高い教育が行えるよう、看護学コースでは実習をはじめとした実技科目に新たな教育手法を導入しました。

クリティカルケア看護論では、今年度購入した最新のシミュレータ「SCENARIO」を活用し、「入院中の患者が急変した場合の看護師対応」の演習を行いました。臨床現場に即した演習を構築するため、準備段階から広島心臓血管病院長の越道看護師長、清田看護師にご協力いただき教員と臨地実習指導者が協働して実施しました。

学生達は、血圧や呼吸状態が刻々と急変する患者(シミュレータ)に戸惑い、最初は十分な観察や援助ができませんでしたが、デブリーフィング(事後の振り返り)を通して、急変時の対応方法を身につけることができました。

演習を通して、五感を使って情報を得る大切さやチーム連携の必要性について改めて認識することができました。(澤岡美咲, 中垣和子, 岡田淳子)



クリティカルケア看護論

令和4年度 オープンキャンパスを開催しました

今年度のオープンキャンパスは、大学で参加する対面形式【来場型】とオンデマンドコンテンツの視聴【オンライン】のハイブリッド方式で開催されました。

7月24日には、3年ぶりとなる【来場型】のオープンキャンパスが三原キャンパスで行われました。当日のプログラムは、1~4年生によるプレゼンテーションや保健師課程・養護教諭課程を選択している学生によるプレゼンテーション、看護技術演習や施設見学、個別相談などがあり、在学生在が中心となり高校生に対応しました。在学生在は、高校生にわかりやすく説明するための工夫を教員や学生同士で考えながら準備を進めていました。高校生からは優しく丁寧に教えてもらってとても楽しかったとの声が多くあり大好評でした。一つ一つの経験を大切にしてこれからの成長につなげてほしいと思います。

是非オンデマンドコンテンツをご視聴ください。

(中垣和子)



2022 オープンキャンパス
看護学コース



オープンキャンパスの様子

精神看護学 10分間ミニ講義

オンライン

2022年度オープンキャンパスでお話した内容について振り返りたいと思います。前半は、精神看護学の概要として、こころの健康問題や病を持った人が中心となり、その人らしさを取り戻して生活していくことができるように、看護として支援する方法を考え実践する分野であることを説明させて頂きました。後半は、抑うつ状態について基本的なポイント、抑うつ状態になりやすい性格や身体症状、精神症状、休養してもらうための環境調整や薬物療法への理解などについて講義を行いました。現在、精神医療は入院中心から退院後の生活までの

抑うつ状態

- ・症状に波があることを理解する
- ・薬の服用や通院を勝手に止めない
- ・抑うつ状態の症状が辛いなら「休む」ことを考える



看護師として…
しっかり休んで頂く環境づくり、無理はさせない、
薬物療法への理解
身体管理、よりそう姿勢など…

広い視野から援助することが重要視されています。そして、精神看護も医療施設だけではなく、職場や地域など生活の場において、さまざまな職種の人とチームを組み合わせながら展開されています。県立広島大学に入学して是非、一緒に精神看護学について学修しましょう。

(井上 誠)



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

教員紹介

精神看護学 講師 近藤美也子



精神看護学担当の近藤美也子です。「メンタルヘルス看護論」においては、身体疾患により心の問題を抱えている患者に心理的ケアを行う学生の実習指導をした看護専門学校時代の経験を活かして、リエゾン精神看護の授業を担当しています。身体疾患をもつ患者に情緒的側面を含めたケアが提供できるように、不安、抑うつ、怒り、せん妄、依存といった心に問題のある患者、5事例を用いてグループでラベルワークを行っています。看護の素晴らしさを実感したエピソードを紹介したいと思って授業をしています。20数年前、内科病棟に勤務していたころ入院されていた患者さんのご家族に偶然に出会い、「あの時の看護師さんですね。母がお世話になりました。」と声をかけられました。患者さんだけでなく家族の方も覚えてくださっていたことに感動しました。



〒723-0053 広島県三原市学園町1-1

TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)

✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp

URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursinq/>



ご意見、ご感想など
お寄せください。

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima